



地元群馬をはじめ、埼玉や東京の先生たちが参加したセミナー(11月9日 群馬県高崎)

# 「音とリズムを大切にした 小学校英語研修セミナー in 群馬」に 首都圏各地から先生方が参加

秋も深まった北関東は群馬県高崎市の育英短期大学キャンパスで、大望の小学校英語研修セミナーが行なわれ、東京からお招きした児童英語の大家 阿部フオード先生などの研修講義に、地元高崎はもろろん、県内の太田や館林、伊勢崎、沼田、さらに隣県の本庄、深谷や都区内、さらには遠く八王子や多摩からも先生や学校長、さらには教育関係者も参加し、必修化を控えた小学校現場での担任中心というニーズに応える電子教材を使った授業が紹介された。

セミナーでは最新式の電子黒板も設置され、「この電子黒板を使うのは今日が始めて」というマイク先生も、コンピュータを使って通るの快適な模擬授業を進めていった。

チャンツをご存知ですか？歌は使つてらっしゃいますか？なぜ歌がいいか？アメリカの、英語の話し言葉と同じイントネーションがあつて、子どもたちに自然な英語の流れを教えるのにとてもいいのです。

英語の話し言葉にはリズムがある。アップダウン、アップダウンがあります。どんなに一語一句きれいな発音をして、単語を棒読みにしたのでは通じないのです。少しぐらい発音が悪

くても、しっかりとイントネーションが正しいと相手に伝わりやすいですね。マイク先生、そうですね。(ええ、笑い)

英語のリズムをどうやって子どもたちに教えるかと言うと、そこでチャンツが生きてくるのです。チャンツは話し言葉をそのままのリズムにのせるのでやりやすいです。

私が小学校に行きますと What is your name? My name is Keiko. というのをよくやっています。手を

叩いてやって見てください。What is your name? My name is Keiko.

でもこれではチャンツではありません。チャンツは4ビートです。1つの文章を2ビートでやるのです。

What is your name? My name is Keiko.

こつこつビートで話す通じるんですよ。強く言つとこらだけが相手に伝われば意味を理解してくれます。こつこつ会話をリズムに乗つて言つてみましょうと言うのが、チャンツです。

チャンツと言うのは日常の話し言葉などをリズムに乗せてやりましょうという事です。そう言うものをどうやってたら早く習得できるかと言うことでこつこついい道具ムービーボックス (movie-boxed) があるんです。今日は 絵を出さないので音だけでやってみます。

(音だけモードでチャンツを再生) 何が聞こえましたか? 裏につづく



第6号

2008年12月5日(金)

発行所

ミニント学習教室

〒370-0013 群馬県高崎市萩原町 950-31  
Tel/Fax 027-353-1091

## 紙面案内

記事	一・九 児童英語研修セミナー in 群馬 開催	一面
連載	お休み	
特集	研修セミナー 実況中継	二面

## 実況中継 1



講師  
阿部フオード恵子

明日から使える歌とチャンツの  
導入、「英語ノート」考察

ユーザーサポート  
027-353-1091

m-Boxed やプレーヤーミニント利用方法のお尋ねや教材のお問い合わせは電話で受け付けています

（講習生が聞き取った単語を口々に言う）では今度は、絵を出します。（と、音と絵を連動させた提示を始める）絵がハイライトされるので、あらためて説明はいらぬでしょ。最初は絵を出さないでよく聞いてもらう

ことから始めることもあつていいですね。先に音を聞かせて、後から絵をみせると、子どもたちはよく聞いてguess（推測）します。ああ、やっぱりだとかなんだ。そうだったのかとなります。こう言う使い方もできるんです。

## 実況中継2



### マザーグース、フォニックスライム による音声指導

講師  
マイク キヤネヴァリ



わたしも小さいころアメリカで、フォニックスを学んだのですが、幼稚園で少しやった程度でした。日本人の生徒にフォニックスを教えるのは取り組みやすいことは確かです。アルファベットカードを見せて音を出していくわけです。それが、だんだん読み書きにつながると言うことで始めたんですけど、日本人の生徒には英語の音が入ってこないのになかなか難しいし、ちゃんとした

英語の読みにつなげるのが難しいことがわかってきました。日本語は、全てが母音で終わるので、猫がcatでなくてkyatto、hatがhattoとなつてしまつて、フォニックスの教え方は、子音がなかなか難しい。の音は、なんだけど後ろの生徒にちゃんと届くようにすると、なつてしまつて、母音が付いてしまつて、日本語では聞いたことがない音をどうやって伝えるか。

田淵先生と相談して、音から入るのがいいと言つたので、マザーグースのようにライムを使ってやってみようというアイデアで作つたのが、フォニックスライムなんです。阿部フォード先生にも協力してもらつて、いいbouquetができたと思うんです。

子どもたちには最初に単語の音と意味を教えることが大切です。でも覚えさせるには回数が必要です。たくさん覚えて、たくさん忘れる。それが子どもの仕事だと思つてました。いくつが残つてい

でも、それだと効率が悪いです。その点ムービーボックスに入つて、電子教材はとも効率がいいです。わたしの授業は、小学生でも1時間近くやるんですが、その中で機械を使う授業は、15分から20分程度です。阿部フォード先生と同じで、子どもたちを立てて会話したり、ドリルで書く練習をしたり、読む練習をしたり、電子教材は必要な時に、効率よく使つています。今日の講習はわたし

の授業と同じにやってみますから、みなさんも子どもになつたつもりで声を出してください。

い。みんな幼稚園児ですよ。これから園服を配りますから。（笑）

## 実況中継3



### 英語は英語のままで行なう 電子教材でのモジュール活用

講師

田淵 龍一



エムボックス

今日の講習で、阿部フォード先生も、マイク先生も使つておられたのが、この小さなE-Boxedという電子機器です。このちっちゃな箱の中に、今お見せしている、緑色をしたプレーヤーミントと言つた動作ソフトが入つています。そして、皆さんのコンテツが入つています。映画だとか、絵本だとか、阿部先生のCALAチャンネル、マイク先生がお使いになつていたマザーグースやフォニックスライムもありません。動作ソフトとコンテツが一緒に入つてますからコンピュータに差し込んで使つています。必修化される小学校英語では、文字使つち

やいけません。読ませちゃだめ。書かせるなんてとんでもない。聞いてしゃべるだけです。歌つて踊つてアクティビティだけです。文科省の英語ノートを、幼稚園や低学年で使つと、絶対うけると思いました。でも、56年生でやると、総すかんを喰らうんじゃないかと。先ほど阿部先生もおっしゃいました、知的レベルが合わないんです。

十歳すぎると脳に基本的な言語野が形成されて、論理的な思考もできます。そういう高学年生にこれだけやっていては失敗します。じゃあ、かと言つて、中学英語をやりましようかというわけにも

行かない。と言うわけ、この二つのあいだで揺れているというのが、必修化を控えた現状ではないでしょうか。解決は、「英語は英語のまま」がキーワードではないだろうか。字を使うか使わないかは、大人が大人の都合で考えていることなんです。英語を英語として受け止めていく、と言うことを考えた時に、英語は英語のまま理解していく、身につけていく。そう考えれば、文字があるかどうかは、そんなに重要なことではない。必要なら必要なところで使う。文字は、必要だからあるわけだから、使わないほうに、無理があるんです。

電子授業と言うものが、この2つの問題です。歌つて踊つてアクティビティなのか、中学英語の前倒しなのか、と言う二者択一ではなくて、英語を英語として教えていくものが、電子授業の中にある、と言うことで、今日の講習会を開いているわけです。キーワードは、「英語は英語のまま」、「義音字一体」、「先音後字」。